

インドの技能実習制度がスタート！

2018年5月22日、インド政府の認定を受けた日本初の送り出し機関「ARMS Incorporation」が始動しました。外国人技能実習機構のホームページに掲載されている各外国政府認定送出機関の一覧では、23番目に私たちARMSが記載されています。また去る9月19日には周辺の大学関係者、日系企業(PIGEON、三井物産、三菱電機等)、地元の有力な政治家が参加し、ARMS Incorporationの開校式が盛大に執り行われました。尚、この模様は新聞にも掲載され、話題となりました。



インドの実習生への期待①（自動車産業）

インドは中国に匹敵する世界第2位、約13億人の人口を抱えており、経済も著しく成長しています。中でも大きなマーケットのひとつが自動車市場です。2017年の自動車販売台数は400万台を超え、中国、アメリカ、日本に次ぎ世界第4位となりました。1981年にスズキとインドの国営会社との合併会社としてマルチスズキが設立され、一方1983年にはDCMトヨタ、1995年にはHonda Cars India Limited、日系の自動車メーカーはそのシェアをインド国内で拡大してきており、今後インド技能実習生の自動車製造業分野でのニーズも高まることが想定されています。

インドの実習生への期待②（介護分野）

また製造業に留まらず、これまで他の国では候補者が集まりにくいと言われていた介護や建築の分野でもインド人実習生への期待は高まっています。特に介護。皆さんは、マニプール州をご存知でしょうか。インドの北東端にある州の一つ、ミャンマーの国境に接している州です。この地方の女性は良く働き、高齢者に対する敬意を重んじ、また納豆を食べるなど容姿も文化も日本人によく似ています。日印首相は2017年9月、北東部の人的交流や開発で合意し、同12月には実務協議が始まりました。まさにインドと日本の技能実習制度の鍵となる地域と言えるでしょう。

私たちはこうしたインド各地域にネットワークを配備し、企業様のご要望にお応えできる体制づくりに注力しています。

インドの教育事情について

インド人が優秀であると言われる背景には、伝統的に数学に強いという事があげられます。「ゼロ」を発見した話は有名で、「十進法」や「桁の概念」を考えたのも彼らです。また、インドは哲学や宗教が発展したように、論理的な思考を得意とします。数学教育においては、公式や計算が中心の日本教育とは異なり、証明問題を中心に論理的思考力に重点が置かれているのです。

またインドの教育制度は、日本の6・3・3制と異なり、5・3・2・2制を基本としており、5(小学校)・3(上級小学校)・2(中学校)・2(上級中学校)で、10学年(中学校)の修了共通試験を合格した者は上級中学校に進み2年間の教育を受けることとなります。これが日本の高校にあたり、12学年修了共通試験を受け、その結果如何で進学する大学が決定されます。大学は医学部が5年制、芸術が3年制、それ以外が4年制となっており、トップレベルの大学では、修了試験後に入学試験を実施するケースも珍しくありません。また、大学では、通常英語によって授業が行われるため、彼らの多くは英語を理解します。

カーストの名残による課題

課題と言えば、身分制度が挙げられます。現在カースト制は廃止されているものの、インド人が就く職業を見るとその根強さを実感します。特に下の階級にあたる人々は、体を使う仕事をしているケースがほとんどで、彼らの子供たちも同じような仕事に就くことになり、結果的に彼らの人生の選択肢は限られていることとなります。一般庶民階級（かつてのヴァイシャと呼ばれた階級）以上の階級に属する人々は、先に述べた体を使う仕事に就くことはありません。つまり教育をしっかりと受けた人ほど、物を運んだり掃除をしたりする習慣がないのです。

ARMS の使命

私たちは教養のある候補者をターゲットに日本に広くインドの技能実習生を送り出していきたいと考えています。彼らは、語学力に長け教養がありますが、掃除したり物を運んだりする文化に触れておりません。これでは、彼らが日本の職場で働いた場合、大きな問題となってしまいます。しかし私たち ARMS がこれまでに築いた中国やベトナムでの教育実績は、トップクラスであると自負しています。彼らがすぐに日本に馴染むようしっかりと教育してまいります。

ぜひ、現地法人をもつ企業様はもちろん、他の国の実習生を検討中の企業様は、インドの技能実習生を受け入れてみてはいかがでしょうか。



〈参考資料〉

外国人技能実習機構（OTIT）外国政府認定送出機関一覧

URL: <http://www.otit.go.jp/files/user/docs/300522-2.pdf>